

2014 年度 学校自己評価報告書(法政大学第二中・高等学校) (付属校学校評価 点検評価シート)

<b>教育理念・目標</b>	<p>教育理念: 本校における教育は、人格の完成をめざして国民的共通教養の基礎を築き、平和で民主的な国家および社会の形成者を育成することを目的とする。</p> <p>教育目標①: 人類および民族のあらゆる分野における歴史的・文化的遺産を体系的に学び取り、自然と社会・人間に対する認識を深める。</p> <p>教育目標②: 獲得した認識を総合し、自然との共生・諸民族の共同など、人類社会のもつ諸課題と向き合う視野を培う。</p> <p>教育目標③: 学ぶことの意味と喜びを知り、常に学問的好奇心を発揮し、生涯にわたって成長を遂げることのできる土台を獲得する。</p> <p>教育目標④: 自己を客観視し、社会の中でどのように生きるかを考える能力をつける。</p> <p>教育目標⑤: 自己の諸課題の解決・現状の変革を担おうとする自主的精神と互いを尊重し共同での取り組みができる自治的能力を獲得する。</p> <p>教育目標⑥: 高い品性と社会性を身につけ、不正・腐敗を許さず、社会正義を確立する自立の力を獲得する。</p>
----------------	--

<b>重点目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1、2016 年度の男女共学化に向けての諸準備を実行する。</li> <li>2、新校舎の使用開始に伴い、表出する具体的課題を解決する。</li> <li>3、教育目標を達成するために生徒一人一人に高い学力をつけさせるための具体的実践の研究をする。</li> <li>4、中高 6 ヶ年を視野に入れた生徒の自主活動を伸ばすための工夫をする。</li> <li>5、法政大学・育友会(PTA)・同窓会・地域との連携を強化する</li> </ol>
-------------	---

共通課題

No.	評価基準	学校自己評価				学校関係者評価
		年度目標		年度評価		実施日
		現状と課題	具体的な取組	達成状況	次年度への課題と改善策	2015 年 12 月 10 日
1	建学の精神 (建学の精神や理念の理解と意識化)	法政大学の付属校として学園の一翼を担う自覚を入学当初から意識化させるために、中学校1年の「校外授業」、高校1年「新入生合宿」など行事や、中学校 1 年社会科の授業を通じて、本校の建学の理念「自由」と「進歩」について大学史や二中高史の独自プリントを使用して学習する。また、旧制二中OBを招き、中1対象に建学当初の講話をしてもらい法政二中高生としての自覚を高めた。				学校関係者からの要望、評価等
2	組織運営	全教職員が組織的取り組みを通じて、教育方針をたて、実践をし、総括する。そのために年度末に1年間の教育活動を振り返る総括を行い、そこから導き出された教訓を方針化して教育実践をしていかなければならないと考える。第二期工事完成にともない、16年から使用される新図書館を本校教育の核となすために、新しく図書館運営委員会を立ちあげた。教員会議を通じて方針をたて、中間点検で実践活動の達成状況を確認し、年度末に総括を予定通り行う事ができた。				
3	教育活動 (教科、生活、進路、行事、自主活動等)	<p>教科においては、学力向上に向けたカリキュラムの再構築と実践を展開した。学力の到達状況に即して特別指導や課題を行うとともに、それをやりきらせるための細やかな指導を継続した。これらの取り組みを通して、多くの生徒を法政大学推薦に値する学力へ到達させることに努めた結果、全体として各教科目の学力到達度、および法政大学への推薦率も前年度の到達を維持することができた。また、学校改革の一環として、「教科教育における6カ年体系化」の中長期計画を策定した。特に、学校コンセプトである「調べ、討論し、発表する」教科活動の推進に向け、学習情報センターとしての図書館を活用した教科教育の実現を射程に司書教諭の免許取得者が増員したと同時に、ICT機器を活用した授業づくりについても学内で研究会を開くなど具体化が進行した。2015 年度は、教科活動上の成果と課題を明らかにしながら6カ年の体系化を進行させ、いっそうの学力向上とそれに基づく法政大学推薦率の維持向上を図る。</p> <p>生活指導において本年度は、2016 年度からの共学化を契機とした「新しい学校作り」に向けて、「中高 6 カ年の生活指導の体系化」のガイドラインを確立し、合わせて女子入学を想定した新たなクラブ設立を含めた「クラブ再構築」を中心に行った。</p> <p>また、例年と同様に多様化する生徒実態に対し、新入生においては主として中 1 校外授業や</p>				

		<p>高1 新入生合宿を通じて、他学年においては前年度の学年からの引き継ぎ等をもとにしたクラス担任を中心とした個別的把握を行い、以降の指導の手立てに反映させた。あわせて保健室やカウンセリングルームと連携をとる中できめ細かな指導を展開した。</p> <p>生徒の自主的活動においては、ホームルームでの組織討議を重視し、行事をはじめとした自主的取り組みが行われていく中で自治意識と民主的運営能力の基礎の確立に努めた。</p> <p>クラブ活動においてはより質の高い活動を目指し、多くのクラブが成果を上げた。また、科学的トレーニングと自主的運営を基本としつつ学年を越えた民主的集団作りを進めた。</p>	
4	<b>安全・保健管理 (保健、安全、防災、施設等)</b>	<p>定期健康診断・体力測定(スポーツテスト)を実施した。その結果と分析を返すことで生徒は自分の体力や健康状態を知ることとなり、さらには健康への認識を深めるようになった。AEDは学校内に6カ所設置しており、どこに設置されているかを理解させる取り組みを行っている。夏休み前には教職員対象及び生徒対象(各部の代表者)の安全講習会を実施し、救命救急について学んでいる。さらに授業でも心肺蘇生法や救急法について学んでいる。また近年増加しつつある多方面の問題に対処しなければならない生徒、保護者のためにカウンセリングルームを充実させ、必要な連携が取れる体制を作っている。</p> <p>避難訓練は特別防災訓練も合わせ計3回実施し、避難場所と避難経路の確認を行っている。2014年度より中学生と高校生が同じ校舎に入り、大人数の生徒が一斉に避難することに関しては課題もあるが、整然と訓練を繰り返すことで非常時でも慌てずに行動出来るよう指導していきたい。何よりも生徒達の健康・安全を念頭に、新校舎建築工事が続く中、より適切な避難経路と場所については検討を継続する。</p>	
5	<b>連携 (保護者、卒業生、地域等)</b>	<p>保護者との連携では、育友会(PTA)との連携を基礎に、育友会理事会の円滑な運営に寄与した。中学高校と別組織だった育友会を共学にふさわしい新しい育友会とするために話し合いを持ち統一する方向を固め、次年度の総会で確認し2016年からスタートすることを決めた。また、毎年夏に開催される「育友会集中ミーティング」は、今年度日程の関係で12月上旬に行われ、学校と保護者の意見交換が成された。また、定期的に育友OB会、白塔会(中学保護者OB会)との連携も行った。日常的な保護者連携としては、各学期に開催される保護者会やクラブ保護者会を軸に、クラス担任、養護教諭、カウンセラーを中心に、各学年がチームとなって生徒個々の実態把握と対応を行った。</p> <p>卒業生は同窓会を窓口として、ホームカミングデーの開催、監督コーチ懇談会(日常の部活指導におけるOBとの連携)、進路指導の一環としてOB講演会を実施した。新校舎建築と共学化に向けた募金活動を同窓会と連携して旺盛に実施していきたい。</p> <p>地域等との連携では、「地域に愛される法政二中高」をめざし、毎年行われる地域懇談会での率直な意見交換を始め、地域の方々からお寄せいただく各種ご意見への対応、学期末ごとに生徒が行う地域清掃ボランティア(各部の部員が中心となって取り組む)、吹奏楽部による地域のお祭りへの参加、教員による年5回の登下校路上指導を行った。また二高祭に於いて、地域の商店街と話し合いを持つことで、期間中3店舗が出店してくれた。</p>	
6	<b>大学との連携</b>	<p>法政大学の15のすべての学部と3つの付属校とが協同して取り組んだ「ウエルカム・フェスタ」は、昨年度のトライアル開催と同じ市ヶ谷キャンパスで開催された。付属3校の高校1年生全員を対象に、「法政大学」の自校教育、大学での「学び」についての概論と学生・大学院生による具体的な「学びのモデル」の紹介を通じ、高校での「学び」の位置づけについて考えさせることをねらいとした。また、今年度も同時開催した保護者向けプログラムでは、「今どきのシュウカツ」をキーワードにしながら、高校生から大学生そして社会人へと成長していく子と親との関係についての講演があり、好評を博した。</p> <p>今年度からの新しい取り組みとして、小金井キャンパスにある理工学部、情報科学部、生命科学部の3つの学部が高校生に向けて最先端の研究・技術を体験してもらう企画、「One-Day Science College in Hosei Koganei Campus」が開催された。</p> <p>高校2、3年生では、各学部より大学教員を招いての進路講演会を1学期に開催し、それぞれの成長過程に合わせて、成功させてきている。大学各キャンパスでのキャンパス・ゼミ見学会も7月に行われ、生徒の進路選択の機会の一つとなっている。「3年3学期プログラム」の取り組みでは、学部毎のクラスに分かれての「テーマ研究」を行っている。課題文献の紹介や研究テーマについての大学教員、大学院生からの助言指導と各学部での入学前教育(ガイダンス)などで大学の援助を受けている。</p> <p>年度末に開催されている「三付属校合同教育研究集会」へは、大学教員も参加するようになって来ている。今後、さらに取り組みを通じて高大教員の交流、協同の広がる可能性がある。</p>	

付属校独自課題

No.	評価基準	学校自己評価				学校関係者評価
		年度目標		年度評価		実施日
		現状と課題	具体的な取組	達成状況	次年度への課題と改善策	2015年12月10日
					学校関係者からの要望、評価等	
1	新校舎への移転準備	第Ⅰ期工事が竣工し、新校舎での教育活動が始まった。2014年度段階では旧校舎と新校舎の併用の状態であり、第Ⅱ期工事も始まり、なおいっそうの安全対策が求められる。新校舎への引越以降、様々な機器・設備の不具合が生じていた。関連業者や関連学内部署と連携して対処にあたってきた。第Ⅱ期工事に伴い、工事区域の拡大もあり、様々な工夫をしながら教育活動を展開していくことが求められた。				
2	2016年度新学校構想	2016年度共学化に向け、各種の教育研究と実践が行われた。教育環境のICT化への研究・実践に関しては、神奈川県私学協会の研究指定校として教科教育の充実に向けて取り組むことができた。新図書館構想については、司書教諭資格を持つ教員を増やすための研修機会を増やし、体制づくりを進めた。国際化推進の取り組みに関しては、留学説明会や帰国生のプレゼンテーション大会などの諸取り組みを通じて、これまで以上の多数の生徒が長期留学を果たしている。学内での国際交流の取り組みとしてもICTを活用した海外とのやりとりを始め様々な取り組みが行われた。2015年度以降より共学化に向けた準備期間を含めたクラブ体制を確立し、準備が進められた。共学化に向けては、段階的導入と発展を視野に具体化を加速させていきたい。				
3	新制服の制定	昨年度の制服決定に続き、今年度は夏服を決めた。夏服は制服のコンセプトを生かしたYシャツブラウスだけでなく、ポロシャツの導入など夏にふさわしいカジュアルな服装も採用した。また、セーターやベストなどの制服の中に着るものも同時に決めることができた。				
4	入試広報	2016年度からの共学化の実現がいよいよ間近になり、本校の積み上げてきた歴史を踏襲しながらも新しい学校作りを見据えて入試制度の検討や広報活動に取り組んだ。HPの印象が学校や受験生への興味を喚起し刺激するものと考え、新しい情報発信を頻繁に実施することも視野に入れてリニューアルを検討し、2015年4月に開始することが出来た。共学化・新校舎という点にも重点を置いて広報活動を行い、広く本校を周知してもらうための丁寧な活動を心がけた。雑誌掲載や海外広報も行ったが、今後もさらに有効な様々な媒体を利用することを考えていく。なお入試においては2014年度より高校入試を国数英の3教科とし、新しい学校作りに向けて動き出した。今後もソフト面でのより具体的な検討をしつつ、積極的に活動を展開していきたい。				
5						
6						